

週 報

2020年度教会標語

「わたしは、祈るときにはいつもあなたがたのことを思い起こし、

何とかしていつかは神の御心によって

あなたがたのところへ行ける機会があるように、願っています」

ローマの信徒への手紙1章9－10節

1904年(明治37年)11月6日創立

日本基督教団

青山教会

牧師 増田将平

107-0062 東京都港区南青山4-9-4

TEL/ FAX 03-3401-6814

No. 3 2020年4月19日

午前10時30分
奏楽 増田基子

～感染予防のために～

- ・限られた人数で礼拝を短縮した形で行います。
- ・マスクの着用をお願いします。讃美歌は割愛します。
- ・すべて着席したままで行います。

前 奏 (黙想)

信仰告白 使徒信条 (前席のプレートをご覧ください)

祈 禱

聖 書 詩編33編9節

マルコによる福音書16章9-20節

説 教 増田将平牧師

献 金

主の祈り (前席のプレートをご覧ください)

祝 禱

後 奏

報 告

礼拝後の予定

◇ 感染予防のためすべての集会はお休みです。

今週の予定

◇ 感染予防のためすべての集会はお休みです。

今週の祈りの課題

○新型コロナウイルスのために悩み苦しむ世界の人々のために

○礼拝に出席できない兄弟姉妹たちのために

○九州教区の諸教会のために

在日大韓基督教会対馬めぐみ伝道所 熊本白川教会 熊本草葉町教会

錦ヶ丘教会 熊本城東教会 武蔵ヶ丘教会 八代教会

次週礼拝予告（4月26日）

聖書 創世記15：1-6

奏楽 増田基子

報 告

感染者数増加のためしばらくの間牧師と長老数名で礼拝を守ります。

新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染により感染します。
どうか以下の注意をお守りください。

- ・教会に到着したらただちに消毒または手洗いをしてください。
- ・マスクを着用してください。
- ・隣席の人と距離をとり離れてお座りください。
- ・礼拝では礼拝室内の換気のために窓や扉を開放します。

外套着用のまま礼拝しても構いません。

- ・至近距離での会話は最小限にとどめ、礼拝終了後は奉仕等の用事がある方以外は

なるべく速やかにお帰りください。

- ・トイレを使用の際は接触箇所を設置されている除菌スプレーで拭き取って下さい。

「婦人たちは墓を出て行った・・・恐ろしかったからである」 8節

この言葉を最後に書き記して、福音書記者マルコは筆を置きました。

その後の物語が先ほどお読みした、9節以下に記されています。

ここから先は、マルコが最後の言葉を書いたのちに、おそらく、百年くらい後になって、当時の教会が書き加えた部分であると言われていています。

区別するためにかっこに入っています。「結び1と2」とあります。

新約聖書の4つの福音書の中で最も早く書かれたのがマルコと言われます。

一方、今朝の物語は、四つの福音書のうちで一番最後に書かれました。

なぜかという、

今朝の部分ではマタイ、ルカ、ヨハネ福音書に収録されている、

主イエスの復活の物語の一部が記されているからです。

たとえば、「二人の人が田舎の方にある行く途中・・・」

これはルカ福音書24章に記された、エマオに向かう二人の弟子の物語です。

だからと言って、ここにあるのは単なるまとめではありません。

すべての福音書に記されている、

主イエスの復活物語の続きがここにあるのです。

復活された主イエス・キリストが最初に姿を表されたのは、

ペトロでも、ヨハネでもなく、一人の女性。「マグダラのマリア」でした。

ここでは丁寧に彼女の過去に触れられています。

この人は、かつて悪霊に取り憑かれていた女でした。

悪霊とは、私どもから自由を奪い、私から生きる力を奪い去る力、私が私であることを妨げる、破壊的な力です。

まるで私以外の何者かが私の中に住んでいるようにしか思えない。

時に私が誰であるのかが、わからなくなる。

この力に対して、私の力では全く太刀打ちできない。

そんなマリアの元に、ある時、

主イエスが来られ、彼女から悪霊を追い出し、マリアは自由になりました。

悪霊から解放され、マリアは、イエスを人生の主人として受け入れ、

主イエスの弟子の一人となりました。

主イエスの死はマリアに深い悲しみをもたらしました。

全てが終わったのです。

再びあの悪霊の力に支配されてしまったかのように思ったでしょう。

しかし、復活された主イエスはマリアのもとに来てくださり、

彼女の名前を呼び、ご自身の姿を現されました。

復活した主イエスと出会ったマリアが、喜びに溢れて向かった先は、

ペトロをはじめとする仲間の弟子たちでした。

行くと、彼らは「泣き悲しんでいた」

マリアも先ほどまで「泣き悲しんで」いました。

「もう泣き悲しむことはありません。主イエスはよみがえられたのです。」

・・・ところが、「信じなかった」

次に、復活した主イエスが現れたのは、
名前が記されていない、二人の弟子でした。
彼らは十字架で死なれた主イエスのことで、望みを失い、
暗い顔をして、とぼとぼ家路に向かっていました。
その二人のところに、どこからともなく復活した主イエスが近づいて、
一緒に歩き始め、姿を現されました。

「二人も行って・・・」

・・・ところが、「彼らは二人が言うことも信じなかった」

最後に、主イエスご自身が弟子たちのところに来られます。

「その不信仰と頑なな心をおとがめになった」

「復活されたイエスを見た人々の言うことを信じなかったから」

「頑なな心」

頑固ということです。マグダラのマリアと、二人の弟子たちが、
弟子たちに神の言葉を告げたのに信じようとしなかった。

弟子たちは「泣き悲しんで」いました。

私どもも、

自分の悲しみの中に閉じこもると、心がかたくなってしまうことがあります。
やがて神の言葉に対して心を閉ざすということがあるのではないのでしょうか。
最後は、「神の言葉よりも、死の力、滅びの力の方が強いのではないか」
とってしまうのです。

弟子たち全員がそうでした。だから、主イエスから叱られています。

「いつまで不信仰と頑なな心の中に閉じこもっているのか、

そこから出てきなさい。」

そして主イエスが弟子たちに語られたのは「福音」、良き知らせです。

「信じて洗礼を受ける者は」とあります。

信じることと洗礼を受けることが一つ。

「信じて洗礼を受ける」とは、

キリストがこの私のために死んでくださったことを受け入れることです。

この私とは、マグダラのマリアのような私、

望みを失い、泣き悲しんでいた私、

不信仰で頑なな心の中に閉じこもっていた私、

こんな私のために神の子であるお方が、死んでくださり、

この私のために、

復活してくださったことを受け入れて、新しく生き始めることです。

反対に、信じないということは、

「この世界で死の力よりも強いものはない、

死は永遠の滅びである」と結論づけて、諦めの中に生きることです。

主イエスは、死で終わらない命へと招いておられるのです。

（「ここに福音がある。この良き知らせは決して朽ちることはない。だから」）

「全世界に行って、全ての造られたものに福音をのべなさい。」

それまでは、聞いても信じなかった弟子たちが、

マグダラのマリアのように、二人の弟子のように、
福音を告げる者に変えられました。

20節 a を朗読

言葉だけではありません。

様々な不思議なしるしが伴いました。

弟子たちは悪霊を追い出し、新しい言葉を語りました。

どうしてこんなことが起きたのでしょうか。

あの弟子たち、頑なな心で信じようとしなかった弟子たちが、です。

ここに、他の福音書記者が記さなかったことが記されています。

19節 b を朗読

「主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを・・・」
復活された方、そして天に昇り、父なる神の右に座しておられる方が、
弟子たちがどこに行ってもいつも共におられた。

東に行っても、西に行っても。北に行っても南に行っても。

弟子たちだけが働いたのではない。

最後の言葉 ここは節もありません。

「その後、主イエスご自身も彼らを通して・・・」

この言葉を記した、2世紀の教会の人々は知っていました。

彼らは今朝の言葉によって、私どもに証をしているのです。

「この言葉は、まことにそのとおりだ。」

今も、

天に昇り、神の右に座して、この世界を支配しておられるお方が、
私どもと共にいて、私どもと共に働いておられる。」

「イエスご自身が、私どもを通して、福音を広めておられる。

全ての人が福音を信じて

朽ちることのない望みを知ることができるように。」

私どもと共に、私どもを通して、主イエスが働いてくださいます。

主イエスの物語は終わっていません。

今も続いているのです。

終わり

説教後の祈り

私どもを死から目覚めさせてください

疑いと不信仰から目覚めさせてください

あなたが主イエスにおいて私どもにしてくださったこと、

これからして下さることを見出させてください。